

行政・司法各部門の支部図書館と専門図書館の連絡情報誌

# びぶろすーBiblos

80号（平成30年4月）



表紙画像：(左上) 支部財務省図書館 の様子

(右上) 支部財務省図書館前の掲示板

※記事「支部財務省図書館見学記—創意と工夫」を参照

(下) インスティトゥト・セルバンテス東京 フェデリコ・ガルシア・ロルカ図書館 の様子

※記事「インスティトゥト・セルバンテス東京 図書館

：スペインとラテンアメリカ文化への開かれた扉」を参照

## 80号（平成30年4月） 目次

『びぶろす』80号刊行にあたって	2
------------------	---

---

<b>【平成29年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会】</b> 特別講演「機関リポジトリの思想と実践」 （国立情報学研究所特任研究員 尾城孝一氏）の要旨 国立国会図書館総務部支部図書館・協力課	3
---	---

---

平成29年度第103回全国図書館大会（東京大会）第13・14分科会に参加して —災害から図書館を守り救うために— 支部会計検査院図書館 宮嶋望帆	7
--	---

<b>【支部図書館紹介】</b> 支部財務省図書館見学記—創意と工夫 支部公正取引委員会図書館 岩澤知栄子	9
---	---

<b>【各国在日図書室紹介】</b> インスティトゥト・セルバンテス東京 図書館 ：スペインとラテンアメリカ文化への開かれた扉 インスティトゥト・セルバンテス東京 フェデリコ・ガルシア・ロルカ図書館館長 ダビ・カリオン	11
---	----

平成30年度国立国会図書館行政・司法各部門支部図書館職員研修等について	14
-------------------------------------	----

日誌（平成30年1月～平成30年3月）	15
---------------------	----

国立国会図書館刊行物紹介（平成30年1月～平成30年3月）	16
-------------------------------	----

## 『びぶろす』80号刊行にあたって

国立国会図書館では、中央館と支部図書館の連携協力をテーマとし、支部図書館の充実強化に資するために、「国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会」を年1回開催しています。

『びぶろす』80号では、平成29年度の同懇談会特別講演「機関リポジトリの思想と実践」(国立情報学研究所特任研究員 尾城孝一氏)の要旨を巻頭に掲載しました。日本で機関リポジトリを公開している機関数は800以上あり、世界一の数と言われているそうです。日本の機関リポジトリには何が登録されていて、どのような貢献がなされているのか、また、オープンサイエンスの推進のために、どのような基盤整備がなされているのかについて、大学や研究機関による、現在の取組状況をお話いただきました。

また、参加記を2件、御寄稿いただきました。

平成29年10月の全国図書館大会では、第13・14分科会(日本図書館協会図書館災害対策委員会と同資料保存委員会の共催)が多くの参加者を集めていました。参加記からは、図書館施設の安全対策、水濡れ資料の手当て、熊本地震で被災した大学図書館の報告、災害時を想定したワークショップなど、講演者の報告を聞くだけでなく、参加者が自ら手を動かし、考える分科会であったことがうかがえます。

同年11月に中央館が開催した支部図書館職員特別研修「支部財務省図書館見学」については、日々の業務での気づきや研修等で得た知識を基に、随所に重ねた工夫を御紹介いただきました。受講者からは、勤務館でも取り入れたいという声を聞くことができた見学会でした。

今号が皆様の業務の参考になれば幸いです。

(編集担当)

【平成 29 年度国立国会図書館長と行政・司法各部門支部図書館長との懇談会】  
**特別講演「機関リポジトリの思想と実践」**  
(国立情報学研究所特任研究員 尾城孝一氏) の要旨

国立国会図書館総務部支部図書館・協力課

平成 29 年 11 月 27 日、国立国会図書館東京本館において、標記懇談会が実施された。今回は、公的部門の情報発信が紙からデジタルへと比重を移している現状を踏まえて、国立国会図書館からは、片山信子関西館長（当時）が当館のデジタルアーカイブについて、デジタルコレクションを中心に報告を行った。

支部図書館からは、中井雅之支部厚生労働省図書館長が、同館の概要と取組について報告し、EBPM（証拠に基づく政策立案）<sup>1</sup>について問題提起がなされた。

特別講演では、尾城孝一 [国立情報学研究所オープンサイエンス基盤研究センター](#) 特任研究員から、「機関リポジトリの思想と実践」と題した講演が行われた。以下、その要旨と質疑の一部を紹介する。

## I 講演要旨

### 1. 機関リポジトリとは

機関リポジトリとは、「大学及び研究機関等において生産された電子的な知的生産物を保存し、原則的に無料で発信するためのインターネット上のサイト」と定義される<sup>2</sup>。ほかに「大学とその構成員が創造したデジタル資料の管理や発信を行うために、大学がそのコミュニティの構成員に提供する一連のサービス」<sup>3</sup>という説明もある。こちらも一般に広まっている考え方である。

機関リポジトリの設置目的は、大きく 2 つ

ある。(1) 学術誌に掲載された査読済みの学術論文を著者が自主的に保存・公開すること（いわゆる「セルフ・アーカイブ」で、「グリーンオープンアクセス」（グリーン OA）ともいわれる）、(2) 大学内の学術資料（紀要論文、学位論文、研究報告等）を保存・公開することである。

研究者にとっては、自らの論文や著書の発信のチャンネルとして利用できること、自らの研究成果の可視性を高めることができること、大学などの機関による一元的管理と長期保存の保証が得られるというメリットがある。また、大学は、教育・研究の成果を保存し発信することによって、社会への貢献や説明責任を果たすことができる。さらに、学内外の研究者・一般利用者にとっては、研究成果へ簡単にアクセスできるというメリットがある。

### 2. 機関リポジトリ小史

ここで、日本の機関リポジトリの歴史を簡単に振り返りたい。

国立情報学研究所（以下「NII」）は、2004 年に機関リポジトリ構築ソフトウェア実装実験プロジェクトを開始し、この年に千葉大学が日本で初めての機関リポジトリの運用を開始した。翌 2005 年から 2012 年にかけて、「学術機関リポジトリ構築連携支援事業」（後述）を開始し、これを契機に機関リポジトリに取り組む大学が急増した。

<sup>1</sup> 編集注：証拠に基づく政策立案（Evidence Based Policy Making）

<sup>2</sup> 科学技術・学術審議会学術分科会研究環境基盤部会学術情報基盤作業部会。 [学術情報の国際発信・流通力強化に向けた基盤整備の充実について（その 1）](#)、2012 年 7 月。

<sup>3</sup> Lynch, Clifford A. [Institutional repositories : essential infrastructure for scholarship in the digital age](#). ARL Bimonthly Report. (226) 2003, pp.1-7.

2012年には [JAIRO Cloud](#) (後述) がサービスを開始し、小規模図書館でも機関リポジトリの導入が可能になった。

さらに 2013 年には文部科学省の省令である学位規則が改正され、博士論文のインターネットでの公開が義務付けられた。このため、学位論文を機関リポジトリで登録・公開するという動きが定着してきた。

そして 2016 年には [オープンアクセスリポジトリ推進協会 \(JPCOAR\)](#) (後述) が設立された。

### 3. NII の支援事業

機関リポジトリを日本に定着させるために、NII では (1)機関リポジトリの構築とコンテンツの拡充、(2)先導的なプロジェクトの支援、(3)学術情報流通コミュニティ活動の支援という 3 つの領域を設定して、大学の図書館に業務委託をして国内の機関リポジトリの構築と連携を支援してきた。

### JAIRO Cloud

[JAIRO Cloud](#) は、クラウド型 (SaaS<sup>4</sup>型) のリポジトリ環境を提供するサービスである。NII がネットワークやハードウェア、ソフトウェアの管理を行うことで、大学等の機関は、コンテンツの収集と公開に注力できる。[JAIRO Cloud](#) はシステム管理が不要であり、独自のシステム構築が難しい小規模の大学図書館も、あまり時間をかけずにコンテンツを公開することができる。

### 学術機関リポジトリデータベース (IRDB)

機関リポジトリのメタデータ流通基盤として、国内のリポジトリからメタデータを収集する [学術機関リポジトリデータベース](#)

(IRDB) という統合データベースを作っている。NII の [CiNii](#) や国立国会図書館サーチ、その他国内外の検索サービスに集積したメタデータを配信することによって、日本のリポジトリに蓄積されたコンテンツを発見しやすくなる仕組みを作っている。

### 4. 日本の機関リポジトリの現状

国内で機関リポジトリを公開している機関の数は現在 800 を超え、アメリカを上回り世界一の数と言われている。

登録コンテンツは日本全体で 200 万件以上あり、内訳は紀要論文が約半分、続いて学術雑誌論文、学位論文などが上位を占めている。また、階層クラスタリングによる機関リポジトリの類型化や、アクセス統計からも、日本のリポジトリは紀要論文、学術雑誌論文、学位論文が中心であることがわかる。

なお、査読済みの学術論文のうち、機関リポジトリに登録されているものの割合は全体の約 6%にとどまるため、先述のリポジトリの 2 つの設置目的のうち、査読済みの論文のオープン化 (グリーン OA への貢献) はまだまだ開拓の余地がある。その一方で、これまであまり流通してこなかった学内の紀要論文や学位論文の保存・公開には大変貢献しているといえる。

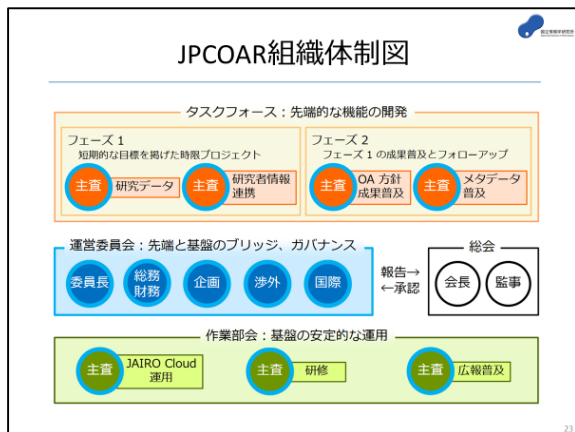
### 5. オープンアクセスリポジトリ推進協会 (JPCOAR)

[オープンアクセスリポジトリ推進協会 \(JPCOAR\)](#) は、2016 年に誕生した、大学図書館を中心に 500 以上の図書館が参加する会費制のコミュニティである。

大学図書館と NII の連携協力の枠組みの中に位置づけられた組織であり、5 つの重点的

<sup>4</sup> 編集注：SaaS (サービスとしてのソフトウェア、Software as a Service) とは、事業者がハードウェアからアプリケーションまでの全てを運用管理し、利用者にネットワークを通じてアプリケーションの機能を必要に応じて提供する仕組みのことである。

目標を定め、オープンアクセスに関する活動（基盤の安定的運用、先端的機能の開発、国際連携）を進めている。総会の下に置かれた運営委員会のほか、作業部会が3つとタスクフォースが4つある。



JPCOAR 組織体制図

## 6. オープンサイエンスへの展開

オープンサイエンスとは、公的研究資金を用いた研究成果について、論文等の文献情報だけではなく、根拠となった研究データ等もアクセス・利用可能にし、イノベーションの創出につなげていくことである。研究不正防止のため、文部科学省や日本学術会議、東京大学などが研究データの管理・保存・開示に関するガイドラインや指針を作成している。

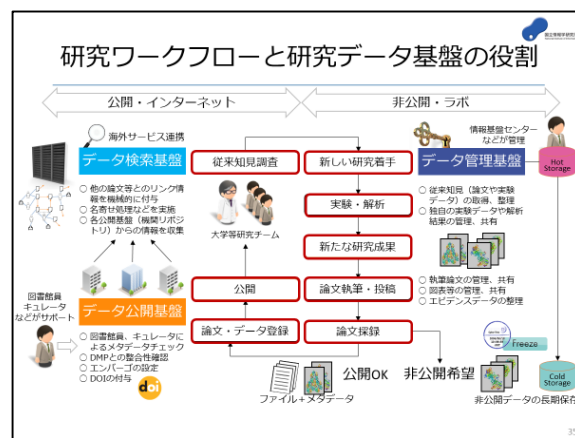
内閣府が出した国内のステークホルダーの役割相関図<sup>5</sup>を見ると、図書館やNIIに対する研究成果の収集、共有データの保存・管理基盤としての役割への期待が大きいことが伺える。

日本のオープンサイエンスは、国や政府レベルの政策は先行しているが、大学や研究機関の現場はまだこれからである。機関リポジトリへの研究データまたはデータベースの登録はわずか2%に留まっており、そのほとんどは [千葉大学学術成果リポジトリ \(CURATOR\)](#) の植物のさく葉標本の画像デ

ータである。とはいえ、手をこまねいているわけではなく、JPCOARは次のような活動を進めている。

- ・研究データ管理の基礎を学ぶ教材を作成し、無料のオンライン講座として開講する
- ・維持管理ができず消えつつあるデータベース（人文社会系）を機関リポジトリで救済するためのデータベースレスキュープロジェクトを実施する
- ・研究データに対応したメタデータ要素を拡充する
- ・大学等でオープンアクセスの方針を策定する際の手引きを作成し、広く公開する

オープンサイエンスの基になる研究データを管理するためにはシステム基盤が必要だが、各機関で個別に開発するのは非効率的である。このため、NIIは平成29年度から、共通で使える研究データ基盤の整備を進めている。



研究ワークフローと研究データ基盤の役割

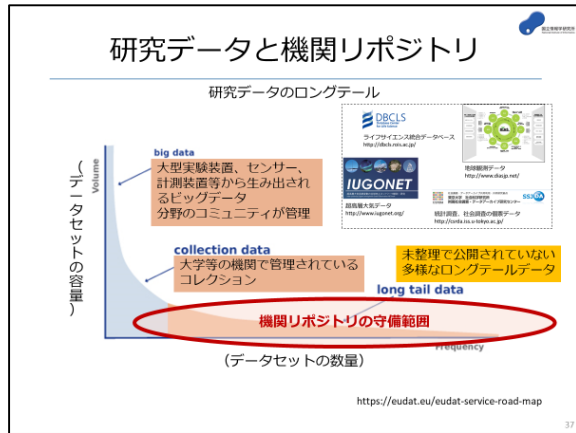
研究者が研究上作成したデータを管理する「データ管理基盤」、文献を拡充してデータを図書館の職員が公開する「データ公開基盤」、「データ検索基盤」（現在のCiNiiにデータの検索機能も追加して実現する）である。

この3つの基盤を通じて、研究者の研究活動をサポートできるインフラ作りを目指して

<sup>5</sup> 内閣府国際的動向を踏まえたオープンサイエンスに関する検討会。 [我が国におけるオープンサイエンス推進のあり方について～サイエンスの新たな飛躍の時代の幕開け～エグゼクティブ・サマリー](#)，2015年3月。

おり、実証実験、試験運用を経て平成 32 年度に本格運用する想定である。

最後に、研究データのロングテールと機関リポジトリの守備範囲について紹介する。



研究データと機関リポジトリ

データセットの容量と数量の関係をグラフにすると、グラフの左側には、大型の実験装置やセンサーから生み出されるビッグデータが並ぶ。これらは分野ごとに管理する仕組みが出来上がりつつある。また、その右には大学等の機関で管理されているコレクションデータがある。今後の問題は、グラフのうちテールにあたる部分である。個々のデータサイズは小さいが数が多い。この未整理で公開されていない多様なデータが、機関リポジトリの守備範囲に当たると考えられる。

## 7. まとめ

日本の機関リポジトリは大きな潜在力を持っている。800 以上の機関がリポジトリを公開し、200 万件以上のコンテンツが登録されている。また、JAIRO Cloud のような基盤的なシステムがあり、メタデータの流通基盤も整備されている。さらに、データを扱う基盤を NII で開発中であり、加えて JPCOAR という 500 以上の大学図書館等が参加するコミュニティがある。このような国は日本だけであり、この潜在力をうまく発揮していければ、オープンサイエンス時代の新しいリポジトリ

ができるであろう。

## II 質疑応答

講演後、参加者と講演者との間で活発な質疑が行われた。一部を紹介する。

(参加者) 政府で統計改革、その一環として EBPM を進めようという動きがある。統計改革、EBPM を進めていくに当たってはデータを活用して政策展開を行っていかねばならないが、自前では限界があるため既存の研究成果の有効活用を考えねばならない。その中で、機関リポジトリを EBPM にも活用できるのではないかと感じた。上記のような事は、JPCOAR ではどのくらい意識され議論されているのか、また、先生の感想を伺いたい。

(講師) NII は大学共同利用機関法人のため、大学のサポートがミッションである。JPCOAR も、現状は大学の図書館を中心とした協会のため、これまでの議論の中では行政情報・行政統計等はコンテンツとしてあまり意識してこなかった。逆に言えば、今後のリポジトリの活用法の一つとして、行政情報等も上手くりポジトリに集約して発信していければよいと個人的には考えている。可能性としては、大学図書館だけではなく、行政・司法の支部図書館の方々と一緒にリポジトリの活用を考えていくという道も十分にありうるのではと思う。

(しぶとしよかん・きょうりよくか)



# 平成 29 年度第 103 回全国図書館大会 (東京大会)第 13・14 分科会に参加して —災害から図書館を守り救うために—

支部会計検査院図書館 宮嶋 望帆

## 1. はじめに

(社) [日本図書館協会](#) 主催の [第 103 回国図書館大会](#)<sup>1</sup>で開催された 24 分科会のうち、『災害から図書館を守り救うために 一人・施設・資料—』をテーマにした第 13・14 分科会<sup>2</sup>について報告します。

## 2. 第 13 分科会

第 13 分科会では 2 名の講師による講演を拝聴しました。

前半の講演では、日本図書館協会 [図書館施設委員会](#)・[図書館災害対策委員会](#) 委員の川島宏氏が「『施設』を守る—地震・水害・火災に備える—」という題で、図書館が人と資料を災害から守る施設であるための備えについてどうあるべきか、建築士の視点から事例を挙げてお話し下さいました。本来、図書館は自然災害に対し人・資料を守る安全な施設であるべきですが、災害による被害は図書館でも度々発生し、報告されています。しかし、これまで図書館で災害が発生した際に窓口となる組織は長らく存在していませんでした。これを改善すべく 2015 年 12 月に図書館災害対策委員会が発足しました。講師の川島氏はこの委員会の一員で、これより前に施設委員会委員として東日本大震災で被災した各所の図書館を訪問し、被害状況報告等をされています。そこで見た現場の情報をもとにして川島氏が作成された、「施設安全のためのチェ

ックシート」をご紹介します。(1)立地の安全性を確認する、(2)建物の安全性を確認する、(3)建物の周辺の安全を確認する、(4)家具類は転倒・転落しないか、(5)落下すると危険なものを見直す、(6)非常時の備えを再点検、の 6 つです。なお、上記のチェック項目は「東日本大震災に学ぶ」をテーマとした研修会の資料や、図書『みんなで考える図書館の地震対策—減災へつなぐ』<sup>3</sup>にも掲載されています。

後半の講演では日本図書館協会資料保存委員会委員長、東京都立中央図書館資料保全専門員の眞野節雄氏が「『資料』を守る—そして『救う』、あきらめない志—」という題で、水濡れした資料の救済方法をご教示下さいました。「災害大国」である日本は災害が多く、様々な災害で貴重な図書館の資料が被害に遭ってきました。東日本大震災で大津波の被害にあった資料の救済では、文化庁が「文化財レスキュー事業」を直ちに立ち上げました。しかし、被災した蔵書の中で国や県の指定文化財は救出されたものの、他の資料の多くは放置されました。こういった状況を目の当たりにした眞野氏は、図書館員自らが[資料を救出するためのマニュアルを作成](#)することにし、今回は水濡れ時のマニュアルについてお話しされました。水に濡れた資料は 48 時間以内に対処しないとカビの原因や塗工紙<sup>4</sup>の貼りつきが生じます。こうした資料

<sup>1</sup> 平成 29 年 10 月 12 日 (木) 及び 13 日 (金) の 2 日間にわたり、東京都渋谷区で開催

<sup>2</sup> 『平成 29 年度(第 103 回)全国図書館大会第 13・14 分科会報告原稿』日本図書館協会, 2017.

<sup>3</sup> 『みんなで考える図書館の地震対策』編集チーム 編, 日本図書館協会, 2012.5, p18-19 [国立国会図書館請求記号: UL511-J19]

<sup>4</sup> コート紙・アート紙など表面にコーティングされた紙

は「水道水」でよく洗い、丁寧に乾燥させることで復活するとのこと。眞野氏が作成した「[被災・水濡れ資料の救済マニュアル](#)」は動画サイトでも公開されているので、ご視聴をおすすめします。

### 3. 第14分科会

第14分科会では熊本地震の特別報告、講師による講演、水濡れ資料救済のワークショップを行いました。

特別報告では [熊本大学附属図書館](#) から図書館員の廣田桂氏にお越しいただき、平成28年に起きた熊本地震の被害について報告されました。熊本大学附属図書館は中央館・医学系分館・薬学部分館の3館で構成されていますが、被害が大きかったのは上記3館の中で最も新しい医学系分館で、建物自体は新しくても川が近い影響で地盤が軟らかかったため、最も被害が大きかったそうです。地震発生時は防災対策として緊急時の対応等をまとめた「中央館危機管理マニュアル」に基づき、声をかけながら館内を巡回し、利用者を館外へ移動させました。幸いにも人的被害はありませんでしたが、図書館の被害として壁の亀裂・剥落や資料の落下・水損、書架のゆがみや倒壊が挙げられました。熊本大学附属図書館のようにマニュアルがあると、災害発生時にも落ち着いてスムーズな対応が行えるのではないかと思います。また、資料の落下等で避難路が塞がれる箇所がないかの確認やヘルメットや防犯ブザーを書架付近に設置するなど、避難路が塞がれたときの備えなども必要だと感じました。

次に、日本図書館協会図書館災害対策委員会委員、[草津町立温泉図書館](#)の中沢孝之氏による「『人』を守るーそのとき、あなたはー」を題に、もし災害が起きた場合どういった行動がとれるかをワークショップ形式で話し合いました。地震発生後、様々な被害が発

生したときに図書館員一人一人がどう動くのか、利用者を安心させるためにどういった声掛けを行うのがよいのか。自分では思いつかないような様々な意見を聞いて、視野を広げるよい機会になりました。

ワークショップでは事前に長時間水につけておいた資料を使って手当を行いました。

(1)水濡れした資料を乾いたタオルで包み、大まかな水分を抜く、(2)塗工紙に対して1枚ずつ吸水紙を挟む、(3)塗工紙以外のページは数ページ間隔をあげながら吸水紙を挟む、(4)すぐに吸水紙を取り替える

上記(3)～(4)の作業を繰り返すうちに徐々に水分が抜け、また利用できる状態までに回復させることができました。



分科会の様子 「『人』を守るーそのとき、あなたはー」

### 4. おわりに

図書館は、自然災害の発生時には資料の落下、書架の転倒、さらに立地によっては浸水などのおそれもあります。

この分科会を通じて、自然災害はいつでも発生するという普段からの心構えを持つこと、そして、何よりも人命が第一であり、その上で資料を守ることが大切だということ、改めて実感しました。「災害大国」である日本の図書館で働くすべての図書館員の皆様のご参考になれば幸いです。

(みやじま みほ)

## 【支部図書館紹介】

# 支部財務省図書館見学記—創意と工夫

支部公正取引委員会図書館 岩澤 知栄子

## 1. はじめに

平成 29 年度国立国会図書館行政・司法各部門支部図書館職員特別研修「支部財務省図書館見学」が平成 29 年 11 月 17 日に行われ、当日は、各支部図書館から 30 名を超える多数の参加者が集まりました。

また、見学後には、予定時間を過ぎるほど多数の質問が寄せられていました。

## 2. 図書館の概要

財務省図書館の歴史は古く、明治 4 年に現図書館の前身である大蔵省記録寮記録部が設置されたことにより始まりました。大正 12 年 9 月の関東大震災に罹災し、約 20 万冊あったとされる開設以来のほとんどの蔵書を焼失してしまいましたが、震災被害を受けていない出先機関からの通達・統計書・書籍等の収集、同省諸先輩方からの手持ち資料の寄贈等を受けながら、再建されました。平成 13 年 1 月の中央省庁再編により、それまでの大蔵省文庫から現在の財務省図書館に名称変更し、現在に至ります。

同館では、二層式の書庫等に和書 155,500 冊、洋書 22,000 冊の合計 177,500 冊の蔵書が収められています。

## 3. 図書館の見学

図書館に入る前に目を引いたのは、廊下に掲示してある複数の本のカバーです。これは、新着図書のカバーで、業務で図書館を訪れる人以外にも同館を利用してもらおうとの趣旨から、従来は捨てていたカバーを利用して掲

示しているそうです。同館を入ったところに掲示するという案もあったそうですが、それでは落ち着いて見られないのではないかとの配慮から、また、蔵書や図書館への関心を高めてもらうためにも図書館に入らないと目にするできないのでは意味がないとの理由から、中ではなく外に掲示しているとのこと。更に、この新着図書のカバーは、より多くの職員が目に向くようにとの理由から財務省本館内で最も多くの職員が利用する同館 3 階の食堂にも掲示されています。



財務省図書館前の掲示板。新着図書のカバーと図書館案内

図書館に入ると、右手の書庫入口付近に同館の案内板が設置されていて、蔵書の種類により色分けされたカラーパネルとなっており、見やすくなっています。書庫の入口に掲げられている「大蔵省文庫」の看板は木製で温かみを感じられます。入口の天井が低めになっているため頭をぶつける人が多いそうですが、その防止策としては、単に「頭上注意！」等の貼り紙をするのではなく、入口にレースの暖簾をかけ、利用者が暖簾をめくることにより、自然に少し腰をかがめて入るよう工夫が

されています。このような細やかな心配りには同じ図書業務を担当する者として文字どおり頭が下がる思いです。入ってすぐ広めの閲覧スペースがあり、入口右手に「MOF 文庫 (MOF(モフ):Ministry of Finance の略称)」と称する同省のOBの方や職員の方が執筆した本が陳列されている書棚があります。以前、ここには法令集等を陳列していたとのことですが、職員からの要望により、平成21年から22年頃に設けられたそうです。



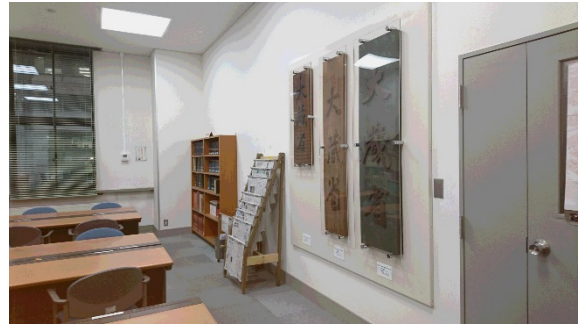
財務省図書館書庫入口横の案内図。書庫入口には暖簾。

書庫の間には、閲覧用に一人用の机が置かれており、ゆっくりと本を閲覧できる工夫がされています。二階では柱に設置された扇風機が回っていましたが、湿気等による図書のカビ防止のため、24時間、365日稼働させているとのことでした。

また、日常の清掃・メンテナンスも、庁舎管理による月一回の一斉床清掃のほか、図書館職員が毎週金曜日の夕方に書棚や図書のホコリや汚れをとるための拭き掃除を行っているとのこと、古い図書が並んでいる棚も清潔な状態になっていました。

図書館の隣に閲覧室がありますが、職員の方々が設置してある新聞を自由に閲覧したり、図書館の資料を調べながらパソコンを持ち込んで仕事をしたりと思いつきのスペースとして利用されているそうです。また、この部屋の入口には、「ご自由にお持ちください。」と

記載されたプレートが置いてある通称「ご自由ボックス」が設置されています。これは、図書館に寄贈されたものの既に図書館に所蔵されているものと同じ図書だったり、蔵書としては不要となった図書等で、そのような図書を単に捨てるのではなく、貴重な資料として有効に活用する取組で、人気のある図書などは置くそばからなくなってしまうそうです。



閲覧室内。歴代大蔵省の看板が掲示されている。

#### 4. おわりに

財務省図書館の職員の皆様が、日頃から図書の管理・保管に細かく配慮されているほか、より多くの職員の方々に図書館を利用してもらうよう様々な工夫されているところには、今後の業務に参考とさせていただける点が数多くありました。

今回は、お忙しい中、丁寧に御対応いただきました財務省図書館の皆様と見学会を企画していただいた国立国会図書館の皆様にご心から御礼を申し上げます。ありがとうございました。

(いわさわ ちえこ)

## 【各国在日図書室紹介】

# インスティトゥト・セルバンテス東京 図書館：スペインとラテンアメリカ文化への開かれた扉

インスティトゥト・セルバンテス東京

フェデリコ・ガルシア・ロルカ図書館館長      ダビ・カリオン

### インスティトゥト・セルバンテス

[インスティトゥト・セルバンテス](#) は 1991 年にスペイン政府により設立された文化機関でスペイン語の振興と教育、そしてスペイン及びスペイン語圏文化の普及を目的としています。本部はマドリード及び偉大なる文学作品である『ドン・キホーテ』の著者であるミゲル・デ・セルバンテスの生誕地アルカラ・デ・エナーレス（マドリード自治州）に置かれています。

五大陸に 70 以上の支部を持つインスティトゥト・セルバンテスの中でも、東京支部は最大の規模を誇ります。2007 年 9 月に活動を開始し、2008 年、当時のファン・カルロス国王、ソフィア王妃、高円宮妃殿下、文化庁長官にご参列いただき、正式に開館しました。

[インスティトゥト・セルバンテス東京](#) は、DELE 試験(外国語としてのスペイン語検定)の実施、スペイン語コースやスペイン語教員養成コースの運営、スペイン語圏に関わる研究者への援助活動、博物館、美術館、劇場、出版社、図書館などの幅広い外部組織と連携しながら、スペイン及びスペイン語圏に関わる文化・学術・文芸活動を振興しており、さらには、これらの事業をスペインや他の国の文化組織とも協力して行っています。東京の学術の中心である半蔵門、四ツ谷、市ヶ谷駅から近く、数多くの大学、高校などの教育機関とも隣接している立地にある地上 7 階・地下 1 階の拠点のビルには、200 人近くを収容

可能なホール、18 の教室、2 つの展示室があり、またスペイン語書籍専門店やスペイン料理レストランが営業しています。

### インスティトゥト・セルバンテス東京 フェ デリコ・ガルシア・ロルカ図書館



閲覧室内の様子

インスティトゥト・セルバンテス東京 フェデリコ・ガルシア・ロルカ図書館（以下、「当館」という）は、グラナダ出身の作家、フェデリコ・ガルシア・ロルカ<sup>1</sup>の名を冠しています。

当館には約 14,000 点のスペイン及びスペイン語圏諸国の書籍、CD、DVD があります。これらの多くはスペイン語の資料ですが、スペインのその他の公用語や日本語の重要な文献、音楽、映画も取り揃えています。

中でもスペイン及びスペイン語諸国の文学作品と外国語としてのスペイン語教育の分野の蔵書は特筆すべきものですが、数多くの素晴らしい映画や音楽（フラメンコに関するも

<sup>1</sup> 「27 世代」（1927 年前後に起こった文化ムーブメント）の一人として、スペイン及びヨーロッパの 20 世紀文学に大きな影響を与え、その作品は日本語、その他多くの言語に翻訳されている。

のも多数)も取り揃え、子供から大人まで様々な人にご利用いただけるようになっています。

日本特有のコレクションとして、スペインとスペイン語圏諸国の文化と文学作品に関係する日本語文献や、スペイン語に翻訳され出版された日本文学、日本文化の本も取り揃えております。

### 図書館サービス

当館は 32 席の広々とした読書スペース、音楽や映画を楽しむことができる視聴覚スペース、豊富な雑誌の閲覧スペースがあります。



閲覧スペースからみた書架の様子

どなたでも無料で閲覧でき、会員登録すると、館内閲覧のみの書籍を除き、当館の全ての書籍、CD、DVD の貸出サービスやデジタル図書館（後述）を利用できます。

スペインで出版され、スペインの図書館に所蔵されている全ての本、論文を対象とした、図書館間貸出サービスも行っており、特に研究者及び他の教育機関の方々には興味深いものと思われます。

さらに当館ではスペイン及びスペイン語圏諸国に関するどのような質問にも対応しており、電話、メール、郵便、FAX にてスペイン語、日本語の両言語で受け付けています。ほか、高校、大学、一般のグループの方向けに、ガイドツアーも行っています。

### デジタル図書館

当館のデジタル図書館では、デジタルブック、デジタルオーディオブック、また科学的・学術的に有用性の高いデータベース、辞書、百科事典、ディレクトリ、音楽、映像資料を提供しています。

24 時間、365 日、どんな場所でも、インターネットに接続された Adobe の DRM と互換性を持つ全てのデバイス（タブレット、テレビ、個人用パソコン、電子書籍デバイス）からアクセスすることができます。

### 図書館イベント

また、当館は、利用者にインスティトゥット・セルバンテス東京で一般向けに行われる講演会、映画、コンサート、展示会等に加え、幅広いイベント情報も提供しています。



イベントの様子

当館では、ある作家の作品及び関連資料、あるテーマに基づいた文献資料を展示したり、スペイン語交流クラブ、子供のための読み聞かせ、[図書館主催の文化コース](#)<sup>2</sup>、様々なスペイン及びスペイン語圏諸国の文学をグループで読む読書倶楽部を開催したりすることを定期的に行っています。そこで興味を深めた人は、デジタル図書館を通してマドリードの本部が世界中にある図書館と協力し運営する

<sup>2</sup> 2018 年 4 月現在のテーマは「ドン・キホーテを読む（前篇）」他。

[Club Virtual de Lectura](#)<sup>3</sup>に参加できます。



読み聞かせ会の様子

### インスティトゥト・セルバンテス図書館のネットワーク (RBIC)

RBIC ([Red de Bibliotecas del Instituto Cervantes](#)) は、世界 30 か国以上の国にある 60 のインスティトゥト・セルバンテスの図書館のネットワークです。スペイン及びスペイン語圏諸国の文学作品及び文化について参照できる唯一の場所となっています。2017 年の RBIC 全体での利用者は、合わせて約 70 万人にのぼりました。

RBIC の蔵書は 100 万点を超えており、資料や情報を共有し、歴史、地理、芸術、哲学、科学、政治、社会、音楽、映画を通じて、包括的でバランスの取れたスペイン及びスペイン語圏諸国の全体像を提供する役割を担っています。

一部の図書館は、より良い環境を整え、また、利用者や公的な研究者の要望に応えるために蔵書を専門性の高い資料にまで広げました。

### 他の図書館や教育機関との連携

RBIC 内での連携同様、日本の図書館や教

育機関との協力はとても大切なことです。

当館は日本のあらゆる形態の図書館（公立図書館、大学図書館、学校図書館等）と協力の輪を広げたいと考えています。また、在日 EU 加盟国文化機関 ([EUNIC Japan](#))<sup>4</sup>を通じて、その他のヨーロッパ諸国の図書館と協力し、プログラムを拡大することにも努めています。

その成果の一つとして、[ゲーテ・インスティトゥート](#)、[アンスティチュ・フランセ](#)、[イタリア文化会館](#)、[上智大学ヨーロッパ研究所](#)の図書館と協力し、2017 年の「ヨーロッパ言語の日」（9 月 26 日）と「ヨーロッパ文芸フェスティバル 2017」に、[駐日欧州連合 \(EU\) 代表部](#) により運営されたイベントに参加しました。

当館は、これからも日本におけるスペイン語圏の文化の普及に努めてまいります。

### インスティトゥト・セルバンテス東京 フェデリコ・ガルシア・ロルカ図書館

〒102-0085 東京都千代田区六番町 2-9

セルバンテスビル 6 階

[http://tokio.cervantes.es/jp/where\\_is\\_instituto\\_cervantes.htm](http://tokio.cervantes.es/jp/where_is_instituto_cervantes.htm)

開館時間

火～金：11:00～19:00

土：11:00～17:30

（日・月は閉館）

どなたでも無料で閲覧できます。

貸出及び電子書籍を利用する場合は、図書館会員証を作る必要があります。

（だび・かりおん）

<sup>3</sup> インスティトゥト・セルバンテスの支部の図書館（たとえばインスティトゥト・セルバンテスのサン・パウロの支部）がモデレーターとなり、参加者がオンライン上で共通文献を読み、アクティビティに参加したり、チャットで意見を交換したりしている。

<sup>4</sup> 欧州連合 (EU) 加盟国の在日文化機関を統合している組織。

## 平成 30 年度国立国会図書館行政・司法各部門支部図書館職員研修等について

国立国会図書館で実施している行政・司法各部門支部図書館の職員を対象とした研修のうち、本年度新規配属職員研修、司書業務研修の予定についてお知らせします。

【新規配属職員研修】Ⅰ、Ⅱは2回実施。5月18日（金）のみ終日、その他は半日での実施。

月 日	科目内容	備考
5月11日（金）	Ⅰ－① 支部図書館制度等に関する説明会	18日にもⅡとともに1日コースで実施。
	－② 国立国会図書館の見学	
5月15日（火）	Ⅱ－① 利用者サービス案内の基礎	18日にもⅠとともに1日コースで実施。
	－② 国立国会図書館オンラインの検索、各種サービスと申込方法	
5月18日（金）	Ⅰ－① 支部図書館制度等に関する説明会	※秋にもⅠ、Ⅱを1日コースで実施予定。
	－② 国立国会図書館の見学	
	Ⅱ－① 利用者サービス案内の基礎	
	－② 国立国会図書館オンラインの検索、各種サービスと申込方法	
5月22日（火）	Ⅲ－① 国立国会図書館における複写サービスと著作権	
	－② 調べ方案内ーレファレンスツールの基礎	
	－③ 交流会	

※Ⅰ、Ⅱ及びⅢの一部を抜粋した内容を農林水産技術会議事務局つくば分館で実施。

【司書業務研修】 最終日のみ終日、その他は半日での実施。

月 日	科目内容
6月1日（金）、4日（月）又は5日（火）	オリエンテーション
	特定テーマ（館外講師）
6月8日（金）	図書館資料の保存のための講義及び実習（予防的保存を中心に）
6月11日（月）	目録法入門
6月15日（金）	レファレンスサービスー科学技術分野
	レファレンスサービスー新聞情報
6月20日（水）	レファレンスサービスー経済社会分野
	レファレンスサービスー人文分野
6月22日（金）	レファレンスサービスー判例の探し方（館外講師）
6月26日（火）	分類法入門
6月29日（金）	レファレンスサービスー法令の探し方
	著作権制度の概要（仮）（館外講師）
	報告・懇談会

今回ご紹介した他にも特別研修を予定しています。支部図書館の皆さまには詳細が決まり次第、通知いたします。

### 国立国会図書館：図書館職員を対象とする研修

このほか、国立国会図書館では図書館職員を対象とする研修として、遠隔研修、集合研修など各種取り揃えています。詳細は以下をご覧ください。

国立国会図書館 HP トップ > 図書館員の方へ > 図書館員の研修 > [平成 30 年度の研修](#)

### 参考

#### 専門図書館協議会：

平成 30 年度総会・全国研究集会（東京） 平成 30 年 6 月 27 日（水）～28 日（木）

#### 日本図書館協会：

平成 30 年度（第 104 回）全国図書館大会（東京大会） 平成 30 年 10 月 19 日（金）～20 日（土）

#### 平成 30 年度第 20 回図書館総合展：

平成 30 年 10 月 30 日（火）～11 月 1 日（木）



## 日 誌 (平成 30 年 1 月～平成 30 年 3 月)

平成 30 年	1 月 5 日	支部図書館長異動 最高裁判所図書館長                      安東 章                      (前 平木 正洋)
	2 月 19 日	平成 29 年度第 3 回兼任司書会議
	3 月 1 日	平成 29 年度行政・司法各部門支部図書館特別研修 国立国会図書館支部図書館制度創設 70 周年記念国際シンポジウム 「イノベーションと公共部門の役割」
	3 月 2 日	平成 29 年度行政・司法各部門支部図書館特別研修 「印刷博物館ライブラリー見学」
	3 月 3 日	支部図書館長異動 会計検査院図書館長                      白川 哲也                      (前 大竹 浩一)
	3 月 9 日	平成 29 年度第 2 回中央館・支部図書館協議会幹事会
	3 月 19 日	平成 29 年度第 2 回中央館・支部図書館協議会

## 国立国会図書館刊行物紹介（平成30年1月～平成30年3月）

当館 HP に公開されている刊行物の中から、平成30年1月～平成30年3月の間に公開された記事の一部を紹介します。

### [『国立国会図書館月報』](#)

国立国会図書館の蔵書や各種サービスについて総合的に紹介する広報誌です。2004年4月以降はPDF形式でご覧いただけます。

- おーるあばうと レファレンス協同データベース ([683号 \(2018年3月\)](#))
- 挿絵の夜明け——平成29年度企画展示「挿絵の世界」から ([682号 \(2018年2月\)](#))
- NDLとOPAC 1989-2017 ([681号 \(2018年1月\)](#))
- ・ ([2017年刊行分一覧](#))
- ・ ([2016年刊行分一覧](#))

### [『調査と情報』－Issue Brief－](#)

国政上の重要課題について、その背景・経緯・問題点等を簡潔にとりまとめた雑誌です。

- No.1001「[原子力発電所の廃炉をめぐる動向](#)」(2018.3.27)
- No.1000「[NHK受信料をめぐる議論](#)」(2018.3.15)
- No.999「[地方公務員の臨時・非常勤職員の論点—平成29年の法改正を中心に—](#)」(2018.3.15)
- No.998「[行政機関における文書管理—国の説明責務に係る論点と改善方策—](#)」(2018.2.27)
- No.997「[空き家対策の現状と課題—空家法施行後の状況—](#)」(2018.2.22)
- No.996「[米欧英の非伝統的金融政策と出口の動向](#)」(2018.2.1)
- No.995「[平成30年度予算案の概要](#)」(2018.1.30)
- No.994「[近年の外来種対策をめぐる動向](#)」(2018.1.25)
- No.993「[平成30年度税制改正案の概要](#)」(2018.1.25)
- No.992「[全世代型社会保障をめぐる議論—子ども・子育て支援策を中心に—](#)」(2018.1.18)
- No.991「[主要国における政治資金の使途制限—個人的支出の制限を中心に—](#)」(2018.1.18)
- No.990「[金融における「顧客本位の業務運営」](#)」(2018.1.11)
- No.989「[学校教育の情報化—現状と課題—](#)」(2018.1.9)
- No.988「[住宅耐震化の進捗と課題—平成28年熊本地震後の議論を踏まえて—](#)」(2018.1.9)
- ・ ([2018年刊行分一覧](#))
- ・ ([2017年刊行分一覧](#))

### [『外国の立法』](#)

諸外国の立法動向を簡潔にまとめています。季刊版と月刊版があります。

- 「[カナダ犯罪被害者権利章典](#)」(No.275 (2018年3月：季刊版))
- 「[【アメリカ】トランプ政権による「国家安全保障戦略」の公表](#)」(No.274-2 (2018年2月：月刊版))
- 「[【アメリカ】高齢者虐待防止及び訴追法の制定](#)」(No.274-1 (2018年1月：月刊版))
- ・ ・ ・ 他

また、月刊版では、各国の立法情報をコンパクトにまとめた短信も掲載しています。

- ・ 2018年2月：月刊版 [短信](#)
- ・ 2018年1月：月刊版 [短信](#)
- ・ ([2017年刊行分一覧](#))
- ・ ([2016年刊行分一覧](#))

『[カレントアウェアネス](#)』

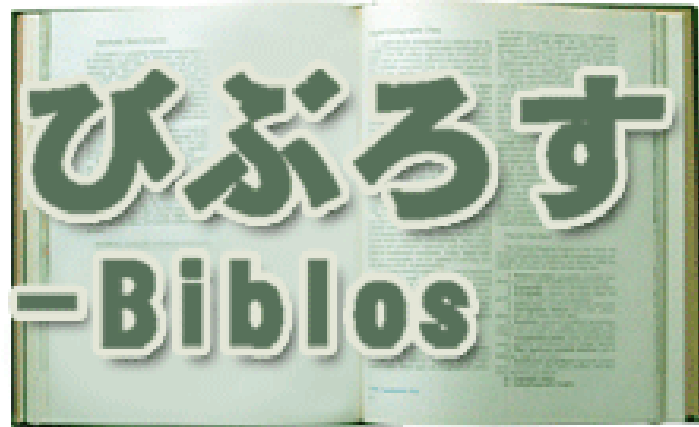
図書館及び図書館情報学における、国内外の近年の動向及びトピックスを解説・レビューする情報誌です。

「[公共図書館への継続的な寄付の事例—寄付は地域の図書館を元気にする—](#)」(No.335 (CA1915-CA1923) 2018.3.20)

・・・他

※※次号『びぶろす』81号のお知らせ※※

2018年7月発行予定です。



80号

平成30年4月

発行 / 国立国会図書館総務部  
ISSN : 1344-8412

web版ではリンクをご活用いただけます

<http://www.ndl.go.jp/jp/publication/biblos/>

 国立国会図書館  
National Diet Library, Japan